

特集

たるみず×歴史×貝

||

祝！鹿児島県指定有形文化財

柁原貝塚

くぬぎばる

鹿児島県垂水市

表紙でご紹介いたしました今月の特集の答えは、学術的に貴重な「柁原貝塚」です。3つのキーワードから連想できましたか？

今月は
貝塚のお話！

柁原貝塚とは 私たちに どんな存在なのか？

特集テーマ

垂 水市では、食べ終わった後、貝殻の処理は「燃やせるごみ」として、ごみの分別を行っています。約3500年ほど前になると、当時の人は、貝殻を特定の場所に捨てていました。それが、私たちが小学校の教科書で習う「貝塚」と呼ばれるものです。垂水市には、その代表的なものとして「柁原貝塚」という文化財があります。今月号では、今年度、鹿児島県の指定文化財（鹿児島県指定有形文化財・詳しくは18ページ参照）に指定され、国の指定を得よう

と気運が高まっている「柁原貝塚」にスポットを当て、「私たちにとってどのような存在なのか」をテーマに、その価値と歴史的ロマンについて、皆さん一緒に考えていきたいと思います。

柁原 柁原は、市の南方に位置し、錦江湾と上野台地に囲まれた自然豊かな場所で、市の幹線道路である国道220号沿いに宅地が集中しています。また400年以上の歴史を持つ伝統行事「おろごめ」が、今もなお継承されるなど、住む人の絆が強く、人情味溢れる住民が多い地域です。

柁原は、市の南方に位置し、錦江湾と上野台地に囲まれた自然豊かな場所で、市の幹線道路である国道220号沿いに宅地が集中しています。また400年以上の歴史を持つ伝統行事「おろごめ」が、今もなお継承されるなど、住む人の絆が強く、人情味溢れる住民が多い地域です。



おろごめ／藩政時代、武士が野生の子馬を「おろ」と呼ばれる囲いの中に追い込んで捕まえていた姿が勇壮だったことから、子ども達にもそのように育ってほしいという願いが込められ行われる伝統行事。
(毎年6月5日開催)



BOOK DATA 柁原貝塚に関する史料や調査報告書

柁原貝塚に関する各種資料は、数種類あり、ここでご紹介した資料はその一部です。垂水市立図書館で閲覧することができます。また史料集は、市教育委員会で販売を行っております。



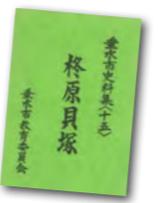
県営農免農道整備事業垂水南地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
297mm×210mm×13mm
(平成11年3月作成)



県営農免農道整備事業垂水南地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
297mm×210mm×13mm
(平成18年3月作成)



重要遺跡確認発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
297mm×210mm×15mm
(平成17年3月作成)



垂水市史料集十五
B5版(183×257)
1,000円
(平成14年3月発行)

柁原貝塚について
話したいことは
本1冊分くらい
あります！



垂水市教育委員会 羽生 文彦

柁原貝塚発掘当初から携わっている市教育委員会の職員。「垂水市内には、垂水島津家墓地や勝軍地蔵をはじめ、様々な文化財があります。今月は柁原貝塚について多くの人にその価値を知っていただければと思います！」



遺跡は埋め戻され、道路の下に今も眠っています。



↑発掘当時の様子（平成9年10月）

発掘調査は平成7年度から14年度まで

上記の写真は、終原貝塚発掘当時の様子です。終原貝塚の発掘調査は、平成7年度から平成14年度にかけて5回、計2597㎡の面積について垂水市教育委員会が実施いたしました。

調査は当初、個人住宅の建設と農免農道整備事業に伴う発掘調査のため行っていました。調査の過程でこの貝塚が縄文時代後期後半から晩期にかけて形成された大規模なもので、しかも良好な保存状態であることが判明しました。

遺物量（昔の人が使っていた道具や、昔のものそのもののことを「遺物」と言います。）も膨大で、学術的にも価値が高い事などから、貝塚本体は発掘調査を行わず、埋め戻しました。遺跡は現在埋め戻され、現状保存がなされています。

↑現在の様子（平成24年4月18日）

柁原貝塚の出土品たち（遺構&遺物）

遺構／昔の人が生活した跡のことを遺構といいます。例えば、家の跡や、貝塚や古墳などのことです。

遺物／昔の人が使っていた道具や、昔のものそのものを、遺物といいます。



竪穴住居跡／太古の家の跡。現在4基が発見。



土壙墓（どこうぼ）／お墓の跡。現在4基が発見。



人骨／現在6人分が発見。



獣骨／7目17種の哺乳類（イノシシ・シカが9割）と、爬虫類（ウミガメ）、両生類（ヒキガエル）の骨を発見。特に、埋葬された可能性のある犬骨や、オオカミ、ツキノワグマ、カワウソ、アシカ、カモシカ等の存在が注目されている。



貝器・貝製品／貝殻の縁を打ち欠いて刃物代わりにしたものなどの実用品（貝器）と、装飾品などの製品（貝製品）がある。貝の産地を分析することで、どこの人々と交流があったのかが分かる。



炭化したドングリ／アクを抜き、石皿等の石器で粉状にし、クッキー状に焼いて食べたと考えられる。



土器・土製品／土器は、主に煮炊きに使用された。約17万個、コンテナ500箱以上が発見された。これらは、非常に多様かつ多年に渡るもので、南九州では出土例が少ないものも含まれている。土器を分析することで、貝塚がいつごろ作られたのか、柁原人たちがどこの人々と交流があったのかといったことが分かる。また、実用品の土器に対し、非実用品と考えられるものを「土器製品」と言う。動物をかたどったと思われるものや円形のものなど、柁原人たちの精神性を示すものとして注目されている。



石器・石製品／約2,400個の石器を発見。用途に応じたいろいろな形のものがあり、柁原人たちが多様な生業を営んでいたことが分かる。また、装飾品やお祭りの道具と考えられるもの、用途不明のものといった石製品も発見されている。装身具には、玉類などがあるが、中には新潟産のヒスイも含まれていることから、交通手段が限られていた太古に遠隔地との交流がなされていたことが分かる。



骨角牙器・骨角牙製品／動物の骨や角や牙を加工したもの。釣針やへらなどの実用品（骨角牙器）と装飾品などの製品（骨角牙製品）がある。



軽石製品／軽石で作られたもの。お祭りの道具と考えられるものや、全く用途が不明なものなど。



魚骨／多くの魚骨を発見。特にイワシ・アジ・サバ・カツオ類などの「外洋性表層回遊魚」が多く見つかった。魚骨を分析することで、当時の海況が暖流の強い影響下にあったこと、漁法（比較的大型のものは主に釣り、小型魚は主に網が用いられた）、漁場（主に湾内）、時期（春～夏（初秋））が分かる。



糞石／糞が化石状になったもの。犬のものである可能性が高いと分析された。

考古学とは境界線上の学問なんです。

私達は文系に所属していますが、発掘で見つかるいろいろなものの中には理化学的な分析が必要なものが多数あります。真実を見つけ出すには、文系理系の垣根を越えた協力が必要です。

鹿児島大学／法文学部人文学科／教授

本田道輝 Honda Michiteru

柁原貝塚の調査報告書



教授の研究室や実験室には、考古学の香りがするものが多くありました。無造作に置かれた土器から、埴輪のレプリカ、考古学関連のポスターまで。

Profile／ほんだみちてる／62歳／鹿児島大学法文学部人文学科教授／日本考古学を専門／生徒が卒業する際にかける言葉「ひた向きに生きなさい」

専門家に聞きました！

柁原貝塚の価値とは？

小学5年生の頃、1冊の考古学の本を母親に買ってもらったことをきっかけに、考古学に興味を持ち、その道に身を投じて40年と言う本田道輝教授に、柁原貝塚についてお尋ねしました。

考古学の魅力とは？

「発掘をすると、掘った瞬間に、それまで無かった新鮮な資料を手にとることが出来ます。目の前に当時の現場があるわけですから、文献を見て当時を想像するよりは、遙かに迫ってくるものがあります。それが魅力ですね。」

柁原貝塚の価値とは？

「柁原貝塚は、学史的にも価値があり、非常におもしろいです。貝塚は普通、貝殻を傾斜地に形成されるのですが、ここは盛り上げた形で形成され、まさに『塚』なんですね。こう言うのは、おそらく鹿児島では初めての例だと思います。また貝塚そのものを、白い貝やキラキラ光る貝で飾っているように、普通の貝塚とは意味合いが異なると思います。また、軽石で人形（ひとがた）をはじめとする種々の製品を作っているのも特徴的です。これらの点からも、十分、県・国の指定を受けられる一級品の貝塚だと思えます。」

あと3年で定年を迎える本田教授。定年後は、体力が続く限り遺跡探しを行うことを考えているとのこと。今後ますますのご活躍を期待いたします。

さあ、勉強のお時間です！



○柘原小学校のキャッチフレーズは、「笑顔あふれる野と渚と貝塚の学校」

4月19日(木)柘原小学校で柘原貝塚説明会を開催しました！

柘原小学校の児童に聞きました！「授業を聞いてどうでしたか？」

柘原貝塚をもっと知るために皆さんと一緒に勉強したいと思います！



垂水市文化会館 坂口 絵莉
垂水市文化会館で施設利用受付や各種イベントのサポートをしています。

貝塚にはいろいろな物があることを知りました！



柘原小6年 大迫 亮さん

昔の人はいろいろな物を食べてたって知りました！



柘原小6年 福田 未空さん

道具を見て、昔の人って器用だなって思いました。



柘原小5年 永田 智矢実さん

昔の人の知恵ってすごいなって思いました。



柘原小5年 新徳 楓さん

としてモクハチアオイガイを持ち込んだ。」と考える人もいます。



↑すり減ったモクハチアオイガイ(下段)

また周辺には、少量の廃棄からなるブロック状の貝のまとまりが点在しています。大きさは様々で、約2600㎡に及んで分布しています。貝塚本体とは性格が異なるようです。



↑貝層端部のブロック状になった貝

Q 貝塚って？

A 貝塚とは、文字どおり古代人が貝殻を捨てた場所のことです。

日本の土は酸性のため、骨や木の実などは長い時間が経つと腐って無くなってしましますが、貝塚では、貝のカルシウム分が土に溶け出しているため、腐敗を抑制し、様々なものが残っています。そのため、古代の人々の生活について、通常の遺跡よりも多くのことが分かる貴重な遺跡と言えます。まさに「古代のタイム・カプセル」！

←貝塚の表面



Q 柘原貝塚って？

A 垂水市柘原柘原下は、古くから「塚」と呼ばれて、畑の耕作中

によく貝殻や土器片が出土したと言われています。

また大正3年には、イギリス人考古学・人類学者のN・G・マンロー博士が、大隅郡肝属地区クノギハラ近くで貝塚を発見しており、現在でも、遺跡周辺の表土中には、土器の欠片や貝殻の欠片が多く散布しています。この柘原貝塚においては、12ページで紹介したとおり、埋蔵文化財発掘調査が実施されました。

柘原貝塚からは、約94種類の貝が発見され、その中でも7種類の貝が特に多く発見されています。

つまり、柘原人たちが特定の貝を狙って採っていたことがわかります。この中で「モクハチアオイガイ」という貝が、全体の約56%を占めています。モクハチアオイガイは採取が難しく、食用の事例があまり無い貝です。また、磨り減った貝殻が多いことから、生きた貝ではなく死貝をわざわざ運んできたことがわかります。

つまり、食用以外の目的で貝が運ばれてきた可能性があるのです。そのため「貝塚を作るための材料

Q 柘原貝塚の5つの特徴って？

A 大きさと形状

現在残っている貝塚の面積は、約500㎡ほどで、厚さも1.1mで

すが、貝塚が出来た当時は、面積が約930㎡、厚さは約4〜5mほどはあったと考えられ、平坦な台地上に塚状に積み上げられて形成されたと考えられます。

鹿児島県下の貝塚遺跡は、谷などの自然地形を利用して形成されたものが多く、形態の上からも柘原貝塚が独特のものであったと言えます。

A 機能

貝塚からは、墓や祭祀に関すると考えられるものが多数出土しており、このことから、柘原人が貝塚で葬式や、恵みをもたらしてくれる自然や神に対する祭祀を行っていたと考えられます(単なるごみ捨て場ではなく、祭壇の役割も兼ねていたと考えられます。)

A 当時の環境・人々の暮らし

当時の柘原貝塚周辺の地形は、鹿児島湾を眼前に望む、起伏の少ない平坦な台地上に立地し、周辺には小さな河川が流れ、大木を含む若干の植生の存在があったと想定されます。人々は初夏ごろから貝塚周辺で暮らし始め、冬前には貝塚周辺を離れたと考えられます。

A 時期

貝塚の形成は、縄文時代後期（約3500～3000年前）

A 墓域と集落

墓域は貝塚のごく周辺、東方から南方にかけて広がっており、集落は墓域より外側に広がっていたと想定されます。

Q 当時の発掘調査ってどんな感じ？

A 発掘調査では、その発掘作業やその後の整理作業など、多くの作業があり、多くの人の手によって、行われました。当時の作業に携わっていた石躍光子さんにお話を伺いました。

Q1 作業に参加したきっかけは？

「ちょうど発掘作業が始まった頃、お友達3人で見学に行ったのですが、その作業が楽しそうだったので、参加したいと思っていました。そして教育委員会から作業員の募集が出ていたので、お友達3人で参加したんです！」

Q2 作業はどうでしたか？

「掘るたびに、次から次へと古代の

人が使ったものが出てくるので、楽しくてしょうがなかったです。

近くを通るたびに、あそこでは土器が見つかったなど、思い出がよみがえります！」

Q3 私たちにとってどんな場所だと思えますか？

「とにかく大切な場所だと思えます。貴重なものが、まだ眠っているでしょうから、これからも守って行くべきものだと思います。」



地元であり、発掘調査にも携わったこともあり、思い入れは人一倍あるかもしれません！

石躍光子さん
柘原在住。発掘作業が始まった当初から作業に携わる。



柘原貝塚とは 後世に残すべき 貴重なもの

特集結論

後世に残すべき 貴重なもの

今月号では、10ページにわたり、柘原貝塚をご紹介してまいりました。いかがだったでしょうか。柘原貝塚からは、ご紹介したとおり、多くの歴史的価値のあるものが出土し、また「祈り」に関するものも発見されており、恵をもたらす自然に感謝する場でもあったと考えられています。

今後、この貴重で重要な文化財を、後世に残していく方法の一つとして、「国の指定を受ける」と言う選択肢があります。しかし実は、今のままでは国の指定を受けることが出来ないのが現状なのです。指定を受けるためには、現在遺跡の上にある道路を迂回させる計画を立てる必要があります。

また、国の指定を受けた後、みんなで活用できる場所にするよう、将来的な整備計画を立てることが必要となってきます。



右ページで紹介したとおり、国の指定を得られれば、いろいろなメリットがありますが、指定を得るために解決しなければならぬ様々な問題があります。しかし、全国的に注目され、価値あるふるさとの宝を、どうかして保存整備し、後世に引き継ぐことが必要なのです。

Q 鹿児島県指定有形文化財って？

A 特集冒頭でも少し触れている「鹿児島県指定有形文化財」。柘原貝塚は、その出土品のうち、特に

価値のあるもの224点が、平成24年度に鹿児島県指定有形文化財（考古資料）に指定されました。

垂水市では、水之上地区にある勝軍地蔵に続き、2点目の指定となります。



↑勝軍地蔵／昭和28年9月7日に鹿児島県指定有形文化財（彫刻）に指定

垂水市教育委員会では、これを受けて、16ページで紹介しているとおり、平成24年4月19日（木）に、柘原小学校5・6年児童を対象に、柘原貝塚出土品説明会を行いました。

※鹿児島県指定有形文化財／鹿児島

島県文化財保護条例（第4条）に基づく指定。鹿児島県教育委員会は、県の区域内に存する有形文化財のうち、県にとって重要と認められるものを鹿児島県指定有形文化財に指定する。

Q 国指定文化財って？

A 文化財の中でも最高峰と言われる国指定文化財。柘原貝塚が国指定文化財に指定されると、

①文化財としては最高級の格付けが得られます。

②文化財の保存活用に対し、各種補助金を活用できます。また、専門的アドバイスを受けられます。

③特別交付税の対象となります。など、貴重な文化財を保存し、まちの活性化につなげることができると、様々なメリットがあります。

ただし、文化財の現状変更をする場合制限を受けます。

※国指定文化財等については、文化庁ホームページのデータベースから検索、閲覧することができ

ます。http://kunishiei.bunka.go.jp/bys/index_pc.asp

※鹿児島県指定有形文化財／鹿児島

STUDY 垂水市教育委員会の取組

今回ご紹介した「柘原貝塚」のほかにも、垂水市には貴重な文化財などが多くあります。それらについて皆さんに知っていただくため、垂水市教育委員会では、次のような取組を行っております。また、ご要望に応じて出前講座等実施します。詳しくは下記にお問い合わせください。

1 たるみず縄文キャンプ



市内の小学生を対象に、火起こし体験や弓矢遊びなど、大昔の生活を体験するイベントです。夏休み期間中に大野自然学校で実施いたします。

■今年度開催 8月27日(月)、28日(火)

※詳細は後日広報いたします。

2 たるみず移動考古展

市内の各小学校を対象に、垂水市内で発掘された出土品を、2週間程展示する「たるみず移動考古展」を実施しています。



3 文化会館に展示コーナー設置

文化会館ホワイエ内（事務所横）に、柘原貝塚の常設展示コーナーを設置しました。職員が在駐している場合、要望に応じて説明もいたします。お気軽においで下さい。

■見学時間 月曜日～金曜日
午前8時30分～午後0時
午後1時～午後5時15分

※市内の他の出土品等も展示しております。

